

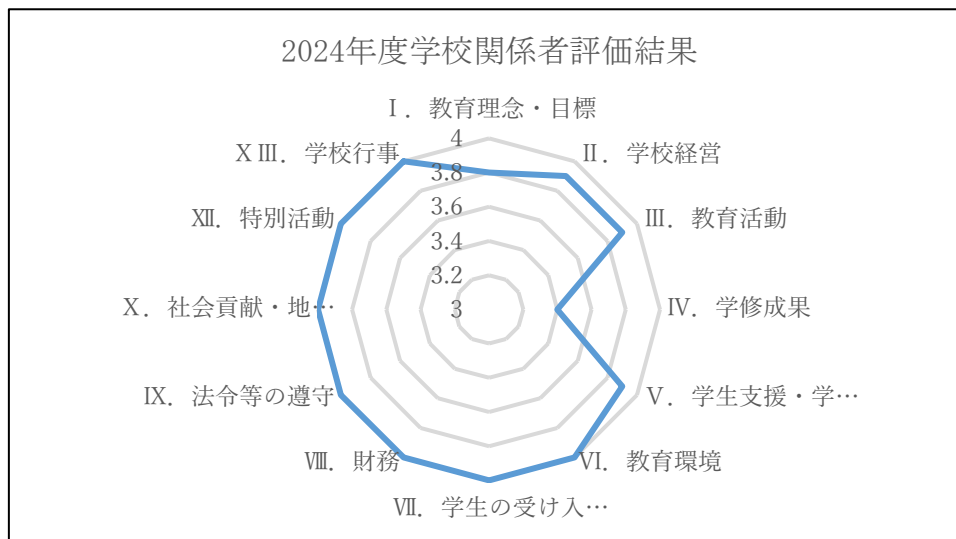
2024 年度 学校関係者評価報告書

学校法人湘中央学園

浦添看護学校

学校関係者評価委員会

学校法人湘中央学園浦添看護学校・学校関係者評価委員会は「2024 年度自己点検・自己評価報告書」に基づいて保護者、卒業生、業界関係者による評価を実施しましたので、下記のとおり報告します。



※評価尺度 4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

I. 教育理念・目標

2024 年度は 2022 年度からスタートした新カリキュラムの完成年度に当たり、3 年間を通したカリキュラムが学校の理念や目的、育成人材像と整合性があるか「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」(看護師等養成所の運営に関するガイドライン)の調査を実施し評価した。99%以上の学生が到達またはやや到達しているとしていることから教育理念・目的・育成人材像とカリキュラムは整合性があり、学生に浸透していると評価している。教員が折りに触れ教育理念や教育目的を学生に説明していることも要因の 1 つとなっている。

保護者への周知については、一部の保護者に限られているため ICT ツールの活用などで取り組みを強化する必要がある。

18 歳人口が減少する中、2024 年度は将来構想に係る検討のため、「浦添看護学校あり方検討会」を全教職員の参加により実施し、現状や課題を共有した。2025 年度も検討会を継続する予定である。

Ⅱ. 学校経営

湘央学園本部から示された経営方針に基づいて学校としての事業計画を策定し、理事会の承認を得ている。事業計画は、年度初めに全職員に説明し、組織目標の共有を図っている。運営組織や意思決定機能は学則や諸規定及び組織図において明確化されており、指示命令系統は明確である。

業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制については、法令や学則及び学内の諸規程を遵守しており、関係法令が改訂されたり新しく策定された場合は、その都度学校の規程を見直したり新規に策定している。

教育活動に関する情報公開については、本校の教育の基盤としている「協同学習」の技法を用いた教育実践について 2 題 2 学会で発表したが、ホームページ等での積極的な情報公開も行っていきたい。

情報システム化等による業務の効率化は、学務システムを導入したので円滑な稼働とシステムの充実に向けて今後検討していく必要がある。

Ⅲ. 教育活動

教育理念に沿った教育課程の編成及び教育方法、評価などについては、新カリキュラムで構築した「シラバス」や履修規程に基づき、的確に実施できている。また、育成人材像や臨床現場のニーズを踏まえて卒業時の技術到達度の技術習得レベルを検討し明確にしている。

カリキュラム開発には従来通り職業実践専門課程に関連する「教育課程編成委員会」の意見等を踏まえて臨床現場のニーズに即したカリキュラム開発(授業方法等)に係る検討を進めている。教育実践に係る授業評価はあらかじめ策定された評価表に基づき、その都度実施しているが、学生の授業評価への参加率が低いため調査方法を工夫する必要がある。

学生の成績評価の結果は教務会で全教員参加のもとで検討し、学生個々の状況を共有している。また、その結果は授業改善につながるよう努力している。

資格取得の指導体制として、国家試験対策委員会の活動と各学年に応じた学習方法を実施している。1 年生から 3 年生までの兄弟学級によるピアラーニングは教育活動における教員の確保はできており、88%は専任教員の要件を満たしている。

教育実践力向上のため FD 委員会によるミニ授業検討会を開催し、各教員が互いに学び合い授業改善に努めている。

Ⅳ. 学修成果

進学や就職についてのサポートは学生のニーズに合わせキャリア支援チームの精力的な活動によりスムーズに対応ができている。資格取得にかかる国家試験対策は、学生が主体的に学習できる学習支援システムを導入したが、活用状況で個人差が大きい。一人ひと

りが主体的に学習に取り組むことができるよう更なる対策が必要である。学習力の弱い学生に対しては、時間外に個別指導を行なっているがそれに応じない学生にどのように支援するか教員も困難さを感じている。

退学率の低減では、学生の定数確保の観点から学力が低い学生も入学させている状況にあり、学業低迷から進路変更により退学する学生が前年度より3名増加した。このような学生への学習支援が課題である。

V. 学生支援・学生指導

学生に対する経済的支援体制、健康管理を担う組織体制、課外活動に対する体制の整備は順調になされている。また、進学・就職に関する支援体制もキャリア支援チームが学生と指導日程の調整をしながら実施している。

メンタルの問題を抱えた学生への対応は、教員がスクールカウンセラーと連携しながら支援している。自主的にスクールカウンセラーに相談する学生もいる。

発達障害のある学生へは、「障害学生支援規程」を作成し支援体制を整えたが申請した学生は1名だけだった。

VI. 教育環境

施設整備については、教育上必要な整備は予算の範囲内で優先度を考慮しながら順次進めている。防災体制も防災管理規定に基づき消防用施設等の点検を定期に実施している。防災訓練の一環で消防訓練及び避難誘導訓練を実施しているが、地震等の自然災害に備えたマニュアルの整備や発災時の訓練が必要である。

VII. 学生の受け入れ募集

学生の募集活動については、高校へのパンフレット配布や高校の進路指導教諭への進路相談等は従来通り実施しているが、自校の特色を広報する手段について検討する必要がある。18 才人口が減少している中、大学志向の強い現役高校生に対して入試制度や試験の在り方などの検討が必要である。

VIII. 財務

財務は適正に運営維持されている。今後も精度の高い予算編成を行い、限られた資源を有効に活用できる体制を整えていきたい。

IX. 法令遵守

法令順守は徹底しており、2023 年度に受けた沖縄県看護師養成所指導調査で所管課の評価は概ね適正に運営されているとの評価を得たため現在も維持している。

X. 社会貢献・地域貢献・国際交流等

地域・社会貢献・国際交流は学校のねらいとする教育が「地域に根ざした看護基礎教育」を標榜していることからボランティア活動を積極的に行っている国際交流については、外国人受け入れは実施していないが、近隣施設の JICA 沖縄国際交流センターとの連携は国際交流という視点で考えると外国に行くことなしに地元でできるというメリットは大きい。今後も継続しさらに充実・強化を図る。

以上